

# 第1学年西組 図画工作科学習指導案

学習指導者 造田 朋子

## 1 単元 「想像を膨らませてかこう ーうつしたかたちからー」

### 2 単元について

#### (1) 「思考力」とその育成に向かう対話

##### 【単元で育成したい「思考力」】

版で写した形や色から想像を膨らませ、自分の表したいことを表すために、版の向きや並べ方、配置、写す数、色の組み合わせ等の表現方法の工夫を吟味する力



##### 【「思考力」の育成に向かう対話】<拡散型>

自分の表したいことを表すために、選んだ表現方法の工夫を伝え合う。

本単元では、身の回りにある物の形に関心を持ちスタンプ遊びをしながら、写してできた形・色から表したい生き物を豊かに想像し、版面として表していく。その中で、一つの形の向きを変えたり、同じ形をつなげたり、大きい形や小さい形の写す場所を考えたり、写す数や色の組み合わせ方を工夫する等、表したいことを表すためにどんな表現をしたらよいか考え、適した表現方法の工夫を選択していく。例えば、楽しくトンボが飛んでいるようにしたい子どもが、「ずらっと並べるよりも、向きをいろいろにしたよ。」と向きの工夫を考えたり、薄暗くなってきた夕焼けの感じにしたい子どもが、「黄色や橙色だと明る過ぎるから、赤と紫を使って暗くなっている感じにしたよ。」と色の組み合わせ方を工夫したりする等である。このように、さまざまな表現方法の工夫を吟味しながら製作していくことで、自分の表現力を高め、表したい思いに沿った作品ができた達成感を得ることができる。

表現方法の工夫を吟味していくためには、さまざまな表現方法の工夫があることを知る必要がある。そこで、上記対話を行い、具体的な表現方法の工夫を伝え合うことで、吟味していく工夫の数を増やすことができる。例えば、「ぼくは、ずらして並べたよ。クジャクの羽の先は、ピーマンを扇みたいに重ねて写したよ。羽の先が広がってきれいになったよ。」「扇みたいにするときれいだね。私は数を増やしたよ。この大きな羽は、オクラをたくさん写して塊にしたんだよ。そうすると、きれいな模様の羽になったよ。」「塊にするのもおもしろいな。そういう写し方もあるんだな。」等である。このような対話を行うことで、自分の考えになかった表現方法の工夫に気づきそのよさにふれたり、さらにおもしろい工夫を考え出ししたりしながら、自分の思いに合った工夫を選択できると考える。

#### (2) 対話への支援 <拡散型の対話>

##### ① 多様な考えが表出される教材 ~学習対象をいくつかの部分に分けて示し、個々の考えを明確にする~

本単元で子どもたちは、さまざまな材料の形を選んで、形を並べてつないだり、色を組み合わせたりと、工夫しながら製作していく。しかし、自分がどんな表現方法の工夫をしているかということを確認にもって、製作している子どもは多くない。また、子どもたちが作品を見るときは、全体的に描かれているものを見るが多く、部分的な表現方法の工夫には目を向けにくい。そのため、作品を紹介し合う際には、「クジャクをかきました。」のように表したものの紹介になったり、「ぼくもトンボをかきたいな。」のように友達が表しているものをまねようとしたりするだけに終わってしまいがちで、表現方法の工夫についてのよさが表出されにくい場合がある。

そこで、表現方法の工夫について明確な視点をもって製作し、それについて友達に話せるように、作品の上に透明のシートを重ね、ホワイトボードマーカーで注目してほしい部分を囲めるようにし、特に工夫した部分がはっきりと分かるようにする。その際、一つの囲んだ部分の中に、表現方法の工夫が二つ以上ある場合は、使った工夫を短いことばで書いたり、別の色で囲んだりする。そうすることで、表現方法の工夫の視点がより明確になると考える。例えば、クジラの潮吹き部分を工夫した子どもは、そこを丸で囲み、使った表現方法の工夫を短いことばで表す。いろいろな向きに写すことで吹き出した

水が飛び散った様子を表すといった、向きを工夫した場合は**むき**，形をつないで海水が背中から吹き出しているように写すという，並べ方を工夫した場合は**ならべる**等，その部分の表現方法の工夫について明確にしていく。そうすることで，表現方法の工夫に着目した対話ができるようになる。

## ② 育てるカウンセリングを生かした支援

### ア 本単元内で直接行う支援

Q-Uによると本学級の子どもたちの中には，友達に否定的なことを言われると感じている子どもが8名いた。これは学級全体の傾向として，積極的に意見を述べて授業に意欲的である一方で，自分と異なる考えに対しては「えっ，そんなの違うよ。」と言うことがあるからと考える。そこで，一人一人，さまざまな感じ方があるのがごく自然なことであり，絵等で自分の思いを表す際は，表現が多様になることこそ素晴らしいのだと，教師が「わたしメッセージ」\*1で伝える。そうすることで，自分と友達の考えが違ってよいと思えるようになり，「えっ。」という否定的な反応が減少していくと考える。また，自分の考えが友達と違っていても自信がもてるように，教師がそれぞれのよさを率直に伝える様子をモデルとして示すことで，子どもたちも互いのよさを見つけ合えるようにする\*2（対話の雰囲気）。これらの支援を継続して行うことで，対話しやすい雰囲気がつくられていくと考える。

### イ 本単元外での活動を想起・活用させる支援

アンケート調査によると本学級には，授業中に自分の意見を友達に話したり発表したりすることに対して，やや抵抗感をもつ子どもが9名いることが分かっている。その理由について聞き取りをすると，「友達の前で発言することは恥ずかしい。でも，一生懸命聴いてくれるなら話せる。」という内容であった。そこで，朝の活動で「聴き合い活動」\*3を行った際に，友達の話をおいたり自分の考えを話したりする際のポイントとして，子どもたちと考えた「聴き合いの手引き」\*3を確認する。そうすることで，まず相手の考えを聴き，質問したいことや感想等を返すといった対話の手順や話し方を活用できるようにし，学級全体の聴く技能を高めていく（対話の技能）。

朝の活動 ・好きな物について話したり，聴いたりする「聴き合い活動」を行い，どのような聴き方が話しやすいかや，どんな反応を返すとよいか話し合い，1西の「聴き合いの手引き」をつくる。

## 3 単元計画（総時数 6時間）

次	主な学習活動	対話への支援
第一 次	①② スタンプ遊びで写した形や色から，想像を膨らませて，版画表現への思いをもつ。 <b>いろいろな物を使ってスタンプ遊びをしよう</b> 写した形から，表したい生き物について想像している。	①～⑤【雰囲気】教師が率先して子どもたちの表現方法の工夫を認め称賛したり，さまざまな感じ方があることが大切だと「わたしメッセージ」で伝えたりすることで，友達のよさを見つけるとともに，自分の考えに自信をもって対話できるようにする。
第二 次	③④⑤ 自分が表したいことを表すために，さまざまな表現方法を吟味しながら製作する。 【本時 4 / 6】 <b>表したいことを工夫して，もっと〇〇な生き物にしよう</b> 自分と友達の作品を見比べて，よりよい表現方法を選んでいる。 ⑥ できた作品を紹介し合う。	④【多様な考えが表出される教材】透明のシートを作品に重ね，特に自分が表現方法の工夫をした部分を囲み，その工夫を短いことばで書き入れたり，色を使ったりして示すようにさせる。 ②③④【技能】「聴き合いの手引き」を示し，相手の話を聴いて，質問したり感想を話したりする話し方等を確認する。

4 本時の学習指導

(1) 目標

自分が表したい生き物を、版の向きや並べ方、配置、写す数、色の組み合わせ等の表現方法を工夫しながら製作することができる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識								
<p>1 本時の学習の見通しをもち学習のめあてを立てる。</p>	<p>前の時間は、生き物のだいたいの形を写したよ。</p> <p>今日は、ぼくの生き物が、どんな感じの生き物なのか分かるように様子を詳しく表すよ。もっと〇〇な生き物にしたいな。</p>								
<p>表したいことを工夫して、もっと〇〇な生き物にしよう</p>									
<p>2 表したいことに合わせて表現方法を工夫しながら製作する。</p> <p><b>【雰囲気】</b></p> <p>3 自分の表現方法の工夫について伝え合う。</p> <p>(1) 作品の上に透明のシートを重ね、工夫した部分を囲む。</p> <p><b>【多様な考えが表出される教材】</b></p> <p>(2) ペアで表現方法の工夫を伝え合う。</p> <p><b>【技能】</b></p> <p>(3) 全体で表現方法の工夫を伝え合う。</p>	<p>形の写し方や色の組み合わせ方を工夫したら、どんな生き物で、どんな様子なのかがよく分かるようになるよ。</p> <p>友達はどうな工夫をしているのかな。知りたいな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">向きと並べ方を工夫したよ。</td> <td style="width: 25%;">場所を工夫したよ。丸が上、</td> <td style="width: 25%;">数を工夫したよ。鱗がかっこいい魚にしたから、</td> <td style="width: 25%;">色を工夫したよ。明るい元気な魚だから、</td> </tr> <tr> <td>向きと並べ方を変えたら青虫が動いたよ。</td> <td>四角を下に写したら蝶の羽が素敵な模様になったよ。</td> <td>反対の色を使ったよ。</td> <td>海の青と反対の黄色にしたよ。</td> </tr> </table> </div> <p>場所を分けると、仲間の形がと、まとまった感じがするね。</p> <p>向きを変えてつないだら、動いている感じがするね。</p> <p>反対の色を使ったら、かっこよく見えるよ。</p> <p>たくさん鱗があると強そうに見えるよ。</p> <p>みんなの工夫はすごいなあ。こんなにいろいろな工夫をしていたなんて気付かなかったよ。もっと工夫してみたいな。</p>	向きと並べ方を工夫したよ。	場所を工夫したよ。丸が上、	数を工夫したよ。鱗がかっこいい魚にしたから、	色を工夫したよ。明るい元気な魚だから、	向きと並べ方を変えたら青虫が動いたよ。	四角を下に写したら蝶の羽が素敵な模様になったよ。	反対の色を使ったよ。	海の青と反対の黄色にしたよ。
向きと並べ方を工夫したよ。	場所を工夫したよ。丸が上、	数を工夫したよ。鱗がかっこいい魚にしたから、	色を工夫したよ。明るい元気な魚だから、						
向きと並べ方を変えたら青虫が動いたよ。	四角を下に写したら蝶の羽が素敵な模様になったよ。	反対の色を使ったよ。	海の青と反対の黄色にしたよ。						
<p>4 表したい生き物の感じに合った表現方法の工夫を選んで製作する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">走るライオンのたてがみが、ゆさゆさと動くように、オクラをつないで写そう。速い感じが出そうだな。</td> <td style="width: 33%;">小さい丸と大きい四角を交代で写してキラリンの模様をつくらう。楽しい感じにしよう。</td> <td style="width: 33%;">黄緑色の恐竜に鉛筆キャップで小さな赤の点々模様をたくさん写して強そうにしよう。</td> </tr> </table> <p>自分の生き物に合った方法を選んでやってみると、はじめよりもっと、生き物の様子が分かるようになってきたよ。</p>	走るライオンのたてがみが、ゆさゆさと動くように、オクラをつないで写そう。速い感じが出そうだな。	小さい丸と大きい四角を交代で写してキラリンの模様をつくらう。楽しい感じにしよう。	黄緑色の恐竜に鉛筆キャップで小さな赤の点々模様をたくさん写して強そうにしよう。					
走るライオンのたてがみが、ゆさゆさと動くように、オクラをつないで写そう。速い感じが出そうだな。	小さい丸と大きい四角を交代で写してキラリンの模様をつくらう。楽しい感じにしよう。	黄緑色の恐竜に鉛筆キャップで小さな赤の点々模様をたくさん写して強そうにしよう。							
<p>5 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>向きや並べ方等を工夫したら、生き物がどんな感じがよく分かるようになるんだね。他の工夫もしてみたいな。生き物の周りも、同じように工夫して表すと、様子がよく分かるようになるね。</p>								

### (3) 本時の支援の実際

#### 学習活動 1

前時で大まかに製作している作品を振り返りながら、どのような感じの生き物を描きたいと思っているのか、そのためにどのような表現方法の工夫をしていくかを考えさせ、本時のめあてをもたせる。

#### 学習活動 2

工夫を認める「わたしメッセージ」の声かけを行うことで、子どもたちは自分のしている工夫が何かを明確にでき、そのよさに気付けると考える。特に意識せず蓮根の形を並べて写していた子どもに声かけを行い、自分の並べ方は動く感じがするというよさに気付けるようにする。また、子どもたちは自分の工夫を認められたと感じ、自信をもって対話に臨めるようになっていくと考える。

#### 学習活動 3 (1)

透明のシートを作品の上に重ね、自分が工夫した部分をホワイトボードマーカーで囲み、使った表現方法の工夫を書き入れさせる。一つの囲んだ部分の中に二つ以上の工夫がある場合、形についての工夫は「むき」や「ならべる」等短いことばで表す。特に配置の工夫については、「ばしよ」ということばだけでなく、ここは「まる」、ここは「しかく」というように、どのような工夫をしたのかをさらに書き加えさせ、より分かりやすくする。色の組み合わせを工夫した場合は赤色で囲むようにさせる。このようにして、何を工夫したかが明確に分かるようにする【多様な考えが表出される教材】。

#### 学習活動 3 (2)

子どもたちは、1西の「聴き合いの手引き」を見ながら、手順に沿って、自分の工夫を話したり、友達の工夫を聴いて質問や感想を言ったりと自信をもって対話できると考える。また、「友達が工夫をうまく伝えられずに困ってれば、丸で囲まれている部分とことばを見て『この並べ方がいいね。』等と感想を言って話を助けながら聴こうね。」と助言し、対話しやすい雰囲気をつくる。

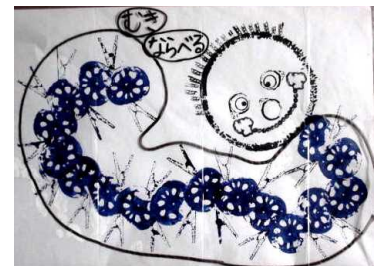
#### 学習活動 4

さまざまな表現方法の工夫の中から、表したい生き物に適した工夫を選び製作していく際、作品に重ねた透明のシートの上に、これからしたい表現方法の工夫を青色で書き込ませる。こうすることで、自分はこんな生き物を表したいからこの工夫をしたい、この工夫にはこんなよさがある等の考えを明確にもって製作していく。

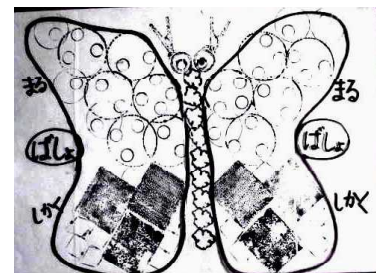
#### 育てるカウンセリングを生かした支援

##### 【雰囲気】

表したい生き物の感じに合うように、表現方法の工夫をしている子どもに「向きを変えながら並べて写しているから、私には動いているように見えるよ。元気な青虫の感じが出ていてすてきだなと思います。」等、工夫を具体的に伝え、そのよさを「わたしメッセージ」で伝える<sup>\*1,2</sup>ことで、作品に自信がもてるようにする。



【向きと並べ方の工夫】



【写す場所（配置）の工夫】

##### 【技能】

1西の「聴き合いの手引き」<sup>\*3</sup>を示し、自分の工夫を伝える話し方や、相手の話を聴いて質問したり、感想を言ったりする話し方を確認する。

- 1西の「聴き合いの手引き」
- ①話すときは「私は～をしました。そうすると、～になりました。」と言う
  - ②うなずきながら聴く
  - ③「どうして～したの。」または「～がいいね。」を言う
  - ④困ったときは周りの人が教える

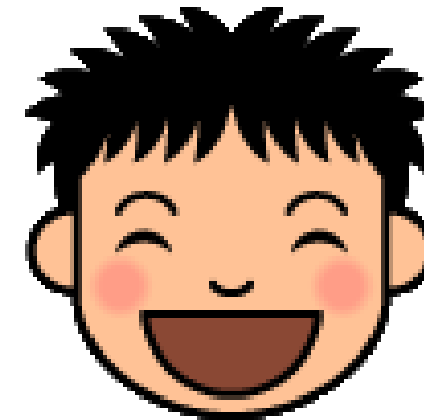
### (4) 評価

版の向きや並べ方、配置、写す数、色の組み合わせ方等の表現方法の工夫の中から、自分の表したい生き物に適していると思う方法を選んでいく。

<例>ライオンがたてがみを自慢している感じを描きたい子どもが、より自慢している様子を表すために、向きと並べ方を選択し、作品にそれを表そうとしている。【方法：透明のシート、作品】



1 にししの



うれししいききかた

① していることをやめる

② おへそをむけて

いいしせい

③ しずかにきく

④ えがおでうなずく

⑤ へんじなどをかえす

⑥ しっぱいしても

わらわない